

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2021年度 パフォーマンス向上会議情報(2021年11月1日(月)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2021年11月1日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【免震重要棟遠隔監視装置におけるモバイル淡水化装置 雨水受入タンク(A)水位計監視不良について】 当直員はモバイル淡水化装置にて「雨水受入タンク(A)」から、「処理水タンク(A)」へ移送開始し、免震重要棟遠隔監視装置において継続監視していたところ、雨水受入タンク(A)を移送中にもかかわらず、水位指示の降下が止まったことを確認。 現場を確認したところ、雨水受入タンク(A)、移送ラインおよび処理水タンク(A)に漏えいはなかった。また、現場のタンク水位計にて監視したところ、雨水受入タンク(A)の水位が降下していることを確認。 なお、当該水位計については点検を実施し、問題ないことを確認済み。</p>	GⅢ	10月26日
2	<p>【既設多核種除去設備バッチ処理タンク(1A) pH計の指示不良について】 当社社員が既設多核種除去設備バッチ処理タンク(1C) pH計を点検したところ、pH値の調整ができないことから、故障と判明。 現在のところ、運転予定のない、(A)系のバッチ処理タンク(1A)の pH計と入れ替えを実施。 今後、新規のpH計が納入される予定のため、納入後(A)系の pH計を交換予定。 なお、pH計は3重化されており、他のpH計により運用可能なため、運転には影響がない。</p>	GⅢ	10月27日
3	<p>【残留熱除去海水系の(A)系における、残留熱除去系熱交換器(A)海水入口ラインドレン弁のシート漏えいについて】 当直員が残留熱除去海水系の(A)系の水張り時、残留熱除去系熱交換器(A)海水入口ラインドレン弁にシート漏えいが発生していることを発見。 当該弁のシート面の洗浄を実施し、水張りを停止後、シート漏えいが減少したことを確認した。 残留熱除去海水系の(A)系の試運転時は、当該弁より下流側にあるフランジを閉じるため、漏えいの影響はない。 なお、次回計画点検時に弁の分解点検を実施予定。</p>	GⅢ	10月27日